

C-16 接着心地を使用した表地の剛軟度とその支配要因について(第2報)

山梨県立女短大 ○白銀啓子 川村短大 安盛都子

目的 接着心地を使用した表地の剛軟度への影響は、表地自身の持つ性質が因子となつてはたういてゐることが、前回の実験によりほゞ推察された。しかし、地ノ目方向別による剛軟度 η の η がいについては、様々の原因が考えられる。そこで、その1つとして接着樹脂の配列の影響について、更に追求するため次の実験をおこなつた。

方法 表地の試料布に繊維の太さの異なる綿ギャバジン3種をえらび、前回と同じ不織布心地 $PD30$ を用いて、表地に対し心地の接着樹脂の異状分布の方向を、 30° 方向(レ0-1)、 60° 方向(レ0-2)の2種類の接着布を作成する。これらと表地の η を、 30° 、 45° 、 60° 、よこの5方向について、剛軟度の測定を、前回と同じハートループ法にておこない、ピアスの理論式を用いて考察した。

結果 接着前の表地の剛軟度の数値は、各試料とも、よこ方向より η 方向に大であつた。バイヤス方向の値は、理論値とくらべ、 30° 方向は小さく、 60° 方向は大であり、 45° 方向はほゞ近い値であつた。資料布レ0-1は、接着前の表地自身の持つ剛軟度と同じ性状をあらわしたのに対し、レ0-2は、レ0-1ほどにその性状があらわれなかつた。又レ0-2とレ0-1は 45° 方向でほゞ一致した剛軟度を示した。これらの実験結果から、接着心地を使用した表地の剛軟度にあつたえる支配要因として、接着前の表地の性質が大きく作用してゐることは更にたしかめられた。しかし心地の接着樹脂の配列方向の η がいもまた、接着後の剛軟度へ影響する要因の1つであることが解明された。